

新・さぬき野

かがやくけん、かがわけん。

香川県

2022 No.76

春

特集 讃岐おもちゃ美術館オープン

現代美術家 香川県知事
知事対談 日比野 克彦 × 浜田 恵造

ヒト×モノ 讃岐デザイン
地元をデザインするボードゲーム

小豆島に、
現代美術館現る。

しょうゆ醸造の木桶が道ばたにある
小豆島の「醤油の郷」。

香川に住んで

はじめたこと



「子どもたちが元気に走って遊び、それを見守る親がくつろいで笑っていると、自分のことのようにうれしい」と片野さん。



「地方ならではの『つながり』を子育てに」

子育て応援NPOフレンズ 代表

片野 牧さん

片野さんが香川県に移り住んで21年になる。親の転勤に伴って子ども時代を各地で過ごし、高校からアメリカに留学。帰国後に結婚して神奈川県に住み、東京の企業で働きながら長男を出産した後、観音寺市に移住した。きっかけは、待機児童の多い地域で、子どもを思うような保育所に預けられなかったこと。子育てのために地方で暮らす選択もある、と考えた。観音寺市に住む母方の祖母に話すと、「香川において、孫とひ孫が近くに来てくれるら、うれしい」と誘われ、移住を決めた。



子育て支援の延長として、昨年10月から女性のさまざまな悩み相談に応じる事業も開始した。

県内他地域の子育て支援NPO法人と交流し、活動をより有益にするための情報を交換することもある。自治体の支援を広く発信するのも大切な役割と感じている。



自然あふれる環境でのびのび暮らす中、次男を出産。子ども向け英会話教室を開き近隣の親子との交流も増え、日々は充実した。ところがある日、けがをして3週間入院することに。すると、ママ友たちが交代で片野家の夕飯を作ってくれたのだ。困った人に手を差し伸べるつながりが、地域に当たり前にあることに驚き、頼る人がいない親に、この関係を広げられるはずと、友人を誘って、親子が自由に集い、互いに助け合える広場を開設。一歩目を踏み出すと、活動を手伝いたいという人、店舗を格安で貸してくれる人が現れ、子どもを遊ばせながらお茶や食事を楽しむ、親同士が交流するカフェも開いた。

片野牧さん

父母が東京に住んでいた時期に母親が里帰り出産したので、出生地は観音寺市。現在、NPO法人の代表として、小さな町だからこそできる子育て支援活動を、香川県西部で拡大中。神奈川県生まれの夫も、地方の暮らしを満喫している。

自身の子育てが一段落し、海でサップ、山でトレッキングと、地元の自然の中で友人と遊ぶ時間ができた。



子育て支援のため「子育て応援NPOフレンズ」を設立すると、活動はさらに広がった。現在は、就園前の親子の交流施設、学童保育など、観音寺市と隣り合う三豊市の子育て支援事業の運営も受託している。「人のためによくがんばるね」と言われますが、私自身のやりたいことが「子育て、楽しい」と感じられる親を増やすことなんです。二人の息子が巣立ちの時間に余裕ができた今、子育てで家族に寄り添う片野さんの気持ちは、ますます高まっている。

新・さぬき野 2022 春

香川県に関する問い合わせ

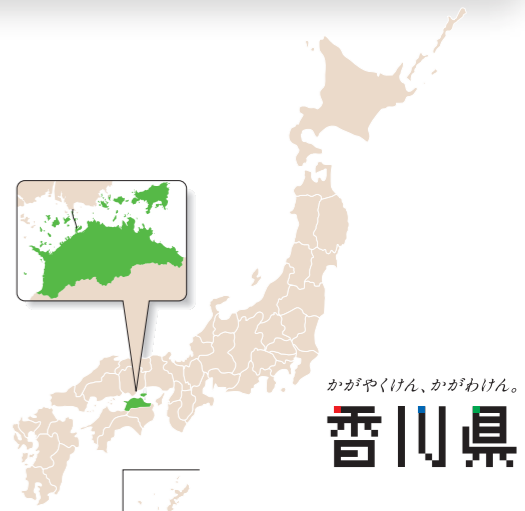
香川県広報課 TEL760-8570 香川県高松市番町4-1-10 TEL087-832-3019
香川県のホームページ <https://www.pref.kagawa.lg.jp/>
新・さぬき野のページ <https://www.pref.kagawa.lg.jp/kocho/koho/sanukino.html>
香川県東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館9階 TEL03-5212-9100
香川県大阪事務所 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1-18-24クロスシティ心斎橋4階 TEL06-6281-1661

多言語電子書籍でもご覧いただけます。
無料アプリ「カタログポケット」をインストールして「新・さぬき野」で検索してください。

iOS



Android



かがやくけん、かがわけん。

香川県



美術館の外観。昔の組合の看板もあえて外さず開館している。瀬戸内国際芸術祭の作品展示会場として使用されたことも。



しょうゆ、つくだ煮、オリーブオイル、そうめんなどの産地で、おいしいものに出合える島として知られる小豆島。

3年に一度のアートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」が2010年に初めて開催されてからはアートファンの来島も増えている。

2021年9月、この島初の現代アートの美術館として「^{ひしお さと}醬の郷現代美術館」が現れた。しょうゆ蔵やつくだ煮の工場が並ぶ「醬の郷」で、島の昔と今、そして未来をアートでつなぐミュージアムだ。

島とアートの物語

小豆島は400年の歴史を持つしょうゆの産地。醬の郷には、20軒以上のしょうゆ蔵やつくだ煮工場が並ぶ。



若手作家が壁に直に絵を描いた部屋が、2室ある。



オリーブの鉢植えを使った、植松奎二氏のインスタレーションがある空間。

醬の郷にアートの灯を

「醬の郷」は、明治期に建てられたものもある古いしょうゆ蔵や、そのしょうゆで作るつくだ煮工場が軒を連ねる、どこか懐かしい趣ある町並みだ。醬の郷現代美術館はその一角に誕生した私設のミュージアム。アートによる地域活性を試みる民間団体、小豆島アートプロジェクトが運営している。

美術館の建物は、1928年に小豆島醤油製造同業組合の事務所として整備された旧醤油会館をリノベーションしている。コンクリート造の洋館で、1962年から1992年は小豆島町立図書館として島民に親しまれた。

美術館には4つのエリアがある。最初のエリアは、この美術館のために創作された作品



が展示されている。二人の若手作家が手掛けた壁画のある部屋や、日本を代表してヴェネチア・ビエンナーレに参加した植松奎二氏や渡辺信子氏のインスタレーションが展示された空間などがあり、自由な空気に満ちている。続いてプロジェクトのリーダーである石井純さんがコレクションした現代アートがあり、次にアーティストの創作の様子を映像で見られるコーナーが続く。美術館が所有する現代アートは約750点。その中から選んだ70点ほどを、入れ替えながら展示していく。

最後のエリアは、小豆島のさまざまな場所で描かれた風景画が並んでいる。これらは美術館設立の核となった作品だ。

昭和の一時、小豆島に多くの画家が滞在し絵を描いた。香川県出身の画家・猪熊弦一郎が島の素晴らしさを仲間に説いたことがきっかけとされる。小豆島アートプロジェクトは、日本各地の美術館、企業や個人収集家

へ散逸した当時の絵画を探し出し、島に里帰りさせたいと考え、クラウドファンディングで活動資金の寄付を募った。

「美しい島の絵画を展示することで、未来を担う子どもたちの感性を磨きアートの灯をともしたい。生まれ育った土地に誇りを持ち、大人になったときに地域を輝かせようと思う動機にもなるはずだ」

石井さんの思いに、島内外の企業や個人などから多くの賛同が寄せられ、目標額を150万円と設定した募金は、2倍の300万円を超えた。小豆島アートプロジェクトは、これを元に絵画約50点を小豆島に迎え入れた。

こうして醬の郷現代美術館は、好奇心をくすぐる現代美術と、かつて描かれた小豆島の絵画を同時に鑑賞できるミュージアムとなった。その、オリジナリティーある存在は、瀬戸内のアートシーンに新しい風を吹かせるだろう。

小豆島アートプロジェクトは「小豆島醬の郷から世界に芸術文化を発信する」をコンセプトに活動している。島の歴史を感じられるエリアに、現代美術という異質な要素を加えれば、お互いに引き立て合っただけでなく、島外からより人を呼び寄せられると考えた。しかしそれだけではなく、美術館を島の人々が集う場としても育てようとしている。

まず始めたのは、子どもたちに開かれたミュージアムを目指す試みだ。そのために15歳以下の入場を無料にし、島内の子どもたちを招待して「子どもワークショップ」を行っている。

保育所や幼稚園の園児を招いて行うワークショップでは、作品を解説しながら館内をガイド。その後、たっぷりと時間を使って、子どもたちに絵を描いてもらう。目にしたばかりのアートに触発された子どもたちはすさまじい集中力でスケッチブックに向かい、床にまで絵を描くことも。床のクレヨンの跡を、石井さんは「美術館の勲章」と捉えている。

大人のためには、仕事帰りに参加できるナイトツアーを行っている。作品ガイドとドリンク付きのツアーは、アートの理解を深めながらゆったり鑑賞できると、好評を得ている。

小豆島アートプロジェクトは、島の人々とアートの接点を少しずつ増やし、島に愛され、そこに人が集う場を創造していく。



人々が集う美術館に



企画展などを行う、醬の郷現代美術館の別館「MOCA HISHIO ANNEX(モカ・ヒシオ・アネックス)」は、さまざまなイベントを地域に提供している。

植松奎二氏と渡辺信子氏の作品を展示した空間。

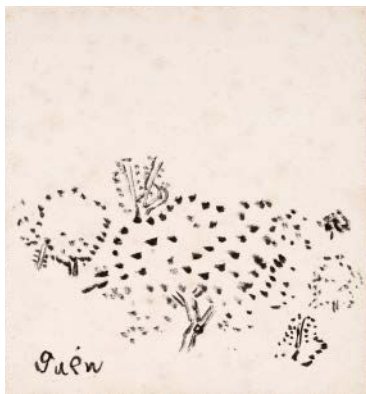


画家たちをとらえたオリーブの島

醬の郷現代美術館に展示されている小豆島の風景画。それらを見れば、香川県出身の画家・猪熊弦一郎をはじめ、画家たちが小豆島を描きたがった理由を感じられる。



猪熊弦一郎《太陽とオリーブ》1948年
©公益財団法人ミモカ美術振興財団/小豆島町役場所蔵



猪熊弦一郎《無題》制作年不明
©公益財団法人ミモカ美術振興財団/小豆島町役場所蔵

初めて小豆島を訪ねた人は、瀬戸内の穏やかな海とそこに降り注ぐ優しい陽光が生まれるのがオリーブの存在だ。1908年からオリーブの栽培が始まった小豆島には、昭和になるとオリーブ園が点在していた。小さな葉を揺らしながら木々が立ち並ぶ風景は地中海を思わせ、画家にとっても特別な場所を感じられたに違いない。

香川県出身の画家・猪熊弦一郎は、昭和の一時、

絵を描くために何度も小豆島に赴き、画家仲間、島に島の素晴らしさを説いたといわれる。東京の自邸の庭には、小豆島をまねるかのようオリーブの木が植えられた。

猪熊が推奨した効果もあったのだろうか、多くの画家が小豆島を訪れ、アトリエを構える画家もいた。彼らにとつて島は、芸術的インスピレーションの源であり、その証拠のように数々の名画が生まれた。

醬の郷現代美術館で、年月を経ても色あせない絵の中の景色に寄り添えば、島を訪ねた大切な記憶として、いつまでもきらめき続けるだろう。



島キッチン/安部良
Photo: Osamu Nakamura

豊島「島キッチン」が 日本建築学会賞を受賞。

2021年日本建築学会賞の作品賞として、「京都市京セラ美術館」「上勝ゼロ・ウェストセンター」と並んで豊島の「島キッチン」が選ばれた。島キッチンは、2010年に開催された瀬戸内国際芸術祭で建築家・安部良が設計した作品。「食とアートで人と人をつなぐ」ことをテーマに、地元の食材を使った料理を来島者に提供している。

現在の島キッチンは、来島する観光客だけでなく、島に暮らす人の心をつなぐ場としての役割も担い、毎月1回、誕生月を迎えた島民や来島者を祝う「島のお誕生会」を開催している。誰でも自由に参加できることから、世代や属性を超えた楽しい出会いの機会となっている。このほかにも毎月発行する「島キッチン新聞」を島内全戸に配布するなど力強く活動しており、今や豊島コミュニティの中心的存在といえる。



【問い合わせ】島キッチン shimakitchen@gmail.com



丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

若い作家のための公募展 「ミモカアイ」を創設。

生前の猪熊弦一郎の全面協力の下、「美術館は心の病院」をコンセプトとして1991年に誕生した丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA)。昨年11月に開館30周年という大きな節目を迎えたことに合わせて、若いアーティストを支援する公募展「MIMOCA EYE / ミモカアイ」を始めることが発表された。これからの時代を担う若いアーティストが独自の才能をはばたかせる起点となることを目指しており、1次審査で選考された入選者による展覧会を開催し、その入選者の中から大賞を選出する。大賞受賞者には、賞金と共にMIMOCAでの個展開催の機会を提供して今後の飛躍を後押しする。

賞	大賞(1件)賞金100万円、副賞として丸亀市猪熊弦一郎現代美術館での個展開催の機会
応募資格	2022年4月1日時点で35歳以下、かつ活動歴が3年以上の方またはグループなど ※募集要項など詳しくはMIMOCAのサイトで発表される。

【問い合わせ】丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 TEL0877-24-7755

県庁舎東館が 国の重要文化財に指定される。

2022年2月9日、香川県庁舎東館が国の重要文化財に指定された。戦後の現役庁舎としては全国初。鉄筋コンクリート建築の中に日本の伝統建築を表現したことや、ピロティやロビーなど県民に開かれた空間とした手法が評価された。受付カウンターや椅子など、庁舎とともに製作された家具類も文化財の一部に指定されている。2019年12月に耐震改修工事を完了しており、全国の建築ファンに親しまれる文化財建造物として、今後さらに注目される。

【問い合わせ】香川県財産経営課 TEL087-832-3075



丹下健三の設計により1958年に竣工。
壁画を猪熊弦一郎、家具を剣持勇が担当した。

撮影: 田村収

小豆島アートプロジェクト プロジェクトリーダー 石井 純さん

大阪府生まれ。父母は小豆島出身。大手家電メーカーで、一時期文化事業に携わり、阪神淡路大震災後にフランス人写真家ジョルジュ・ルース氏の制作活動を企画して交流が始まる。子ども時代、日本の原風景のように感じながら長い休みを過ごした祖父母の家で、ルース氏に作品を制作してもらおうと、小豆島アートプロジェクトを立ち上げた。



小豆島アートプロジェクト 私立美術館ならではの 物語あるアートを

醬の郷現代美術館は、小豆島アートプロジェクトの二つ目の活動です。一つ目は、2018年に行ったフランス人写真家のジョルジュ・ルース氏のプロジェクトでした。
ルース氏は、建築物の空間を、ある一点から見ると平面の図柄が浮かび上がるよう彩色して撮影する写真作品で知られます。小豆島では、50人のボランティアと共に、私の祖母の住んでいた住宅で制作を行い、ルース氏のその作品が2019年の瀬戸内国際芸術祭に参加すると、3万1500人もの来場を記録しました。
ルース氏は本来、解体間近の建築物を選んで制作を行うので、制作現場が残りません。しかし小豆島の建物を残すことには承諾を頂き、世界で唯一、ルース氏の制作の場が保存できたことにも意義があります。
最初のプロジェクトで、アートが人を引き付けるパワーに驚き、美術館設立を決定しました。けれど私は、作家でも美術の専門家でもありません。芸術的な価値を求めるより、小豆島や美術館に縁のある作品を展示すること、創作の過程など作品の周辺にも面白さを感じてもらいたい、思いがけない体験をして自分だけの思い出を持って帰ってもらうことに重きを置いています。小豆島の絵画の里帰りにしても、画家の目線で切り取った数々の美しい島の姿と、画家と島の交流を再発見する、新しい物語を楽しんでほしいのです。
小豆島でもっとアートに親しんでもらうための、次のプロジェクトも進行中です。美術館という枠にとらわれず、民間施設ならではの、軽やかで生き生きとしたアートとの関わり方を形にしていきたいと思います。



創作の現場を「GEORGES gallery (ジョルジュ・ギャラリー)」と名付けて保存。作家と同じ写真が撮影できる。



GEORGES galleryは屋根裏にもルース氏の作品の制作現場がある。そこでの創作風景。



SHODOSHIMA2018 © GEORGES ROUSSE



醬の郷現代美術館
香川県小豆郡小豆島町馬木甲36-2
【開館日】瀬戸内国際芸術祭2022会期中/無休
会期外/木・金・土・日曜日と祝日
【開館時間】午前10時～午後5時
【入館料】1,500円(15歳以下無料)
<https://www.mocahishio.com/>

【問い合わせ】醬の郷現代美術館、GEORGES galleryともにTEL080-6725-9494
※瀬戸内国際芸術祭2022開催期間(春・夏・秋会期)のチケットは、ホームページから予約可能。



GEORGES gallery (ジョルジュ・ギャラリー)
香川県小豆郡小豆島町馬木甲881-9
【開館日】瀬戸内国際芸術祭2022会期中/無休
会期外/木・金・土・日曜日と祝日
【開館時間】午前10時～午後5時
【入館料】500円(15歳以下無料)
<https://www.georges-gallery.com/>



MOCA HISHIO ANNEX (モカ・ヒシオ・アネックス)
香川県小豆郡小豆島町馬木内浜822-2
開館日、開館時間、入館料は、GEORGES galleryと同じ。

GEORGES gallery は、アートを展示する KOHIRA cafe(コヒラ・カフェ)を併設。



瀬戸内国際芸術祭2022の最新情報はこちら
<https://setouchi-artfest.jp/>





認定NPO法人わははネット理事長
中橋 恵美子

今年4月25日、高松市の繁華街の中心部に「讚岐おもちゃ美術館」がオープンする。木で作られたおもちゃを使っ
ての遊び体験や、おもちゃ
学芸員との交流をメイン
にしたミュージアムで、「東
京おもちゃ美術館」の姉妹美術館となる。
おもちゃ美術館を運営するのは、香川の
子育てを応援する認定NPO法人わはは「ここ
で遊んだ子どもが、大きくなって香川に誇
りをもてるような施設にしたい」と願い遊
びを通じて香川の多彩な魅力を体感でき
ることをコンセプトとした。靴を脱いで入
館することは、その仕掛けの一つ。床材とし
て香川県産の木材が使用されており、歩き
ながら優しい木の質感やぬくもりを感じ
られるようになってきている。また、多くの体験



漆塗りのすべり台の制作風景。通常、乾燥した漆でかぶれることはないが、子どもの遊具であることに配慮して乾燥期間を長くしている。

型作品を伝統の技や特産品を用いて制作し、それぞれに遊び心を刺激するアイデアを詰め込んでいる。しょうゆを醸造する小豆島の巨大な木桶は茶室になり、庵治石はゆりかごに加工された。讃岐かがり手まりは、木のオブジェにひっつけて盆栽をつくるおもちゃになり、香川漆芸の3技法(蒔繪、存清、彫漆)で仕上げた美しいすべり台も設置される。伝統工芸の大胆な使い方には、驚きとともに感心させられる。なるほど、おもちゃとして親しんでいけば、身近な存在と感ずるようになるのは当たり前だ。先ほどのすべり台は、子どもたちが数限りなく滑ることで少しずつ表面が削れていくことを想定している。塗り重ねた色漆の層が少しずつ出てきて、10年後にカラフルな作品になるという。使い込まれることで新たな価値が生まれるという発想は、未来を見据える大事なヒントにも思える。



香川の技を遊びの中へ。

讚岐おもちゃ美術館オープン

ごっこ遊びの小屋

うどん屋さんになり、おもちゃのうどんを作って遊べる。

シンボルツリー

香川のヒノキを使ったシンボルツリー。

木桶の茶室

小豆島で制作した巨大なしょうゆの木桶の中が茶室になっている。

手まり盆栽

ドームの中につるされた手まりを木の枝にひっかけてオリジナルの盆栽を作る遊び。

すべり台

香川漆芸の3技法を用いて作られる。

あかちゃんひろば

軟らかい杉板の床に大人がゆったり座って、ハイハイする赤ちゃんと過ごせる空間。庵治石のゆりかごを設置予定。

はだしで回遊

入口で靴を脱ぎ、ヒノキの床の上をはだしで歩く。

ワークショップルーム

工作やおもちゃづくりなどの体験ができるスペース。



展示品と同様に期待したいのが、ボランティアで参加する「おもちゃ学芸員」である。おもちゃの遊び方を伝えるのが主な役割だが、遊びを通しておもちゃや内装に使われている特産品や工芸品の話を紹介してくれる予定だ。希望者を募ったところ多数の応募があり、すでに150人の研修が終わってスタンバイ状態という。一般的な

中橋さんは「子どもにとって遊びは、学びである」と考えている。遊び方を限定しない木のおもちゃは創造力を育て、卓越した技術が込められている伝統工芸は感性を養う。親子ともに遊びから多くのものを吸収して、豊かな人間性を育ててほしい。



讚岐おもちゃ美術館

香川県高松市大工町8-1-1F TEL087-884-7171
開館時間 / 午前10時～午後4時
休館日 / 木曜日(祝日の場合開館、翌日振休)
入館料 / 大人(中学生以上)900円・子ども(生後6カ月以上)700円
※入館はオンラインにて事前予約制



香川県知事
浜田 恵造



現代美術家
日比野 克彦

内海の誰も知らない世界を探る

知事 日本を代表する芸術家の日比野さんには、瀬戸内の島々を舞台に開催する「瀬戸内国際芸術祭」に2010年の第1回からアーティストとして参加していただいています。また、香川県と東京芸術大学との連携事業の監修も務めていただくなど、アート県かがわの発展にもお力添えをいただいています。

日比野 瀬戸内国際芸術祭には、ディレクターの北川フラムさんからの誘いがあった関わるように

も知らない世界をみんなで探っていくとおもしろいのではないかと、瀬戸内国際芸術祭2010において中期計画プランを発表しました。そして、瀬戸内国際芸術祭2013では、薦島に行く連絡船を改装して、海底から引き揚げた遺物を展示する船上美術館「昨日丸」と三豊市の粟島の旧海員学校の建物(粟島海洋記念館)を利用した「ソコソコ想像所」という二つの作品を発表しました。

環境、島民の人柄、独自のアートなどが、世界に通じる魅力として認められたように思います。

知事 アートの奥深さがよく分かるお話ですね。さて、日比野さんには、2020年と21年に、香川県と東京芸術大学との連携事業として善通寺市で開催した展覧会の監修も務めていただきました。

日比野 香川県と東京芸術大学は、長年協力体制の中、プロジェクトを展開していますが、私がディレクションした2年間はコロナ禍となり大変苦慮

しました。20年に開催した「TURN on the EARTH」わたしはちきゅうのこだま」は、社会的課題を抱えている地域にアーティストが赴き、そこの方々と一緒にものを作り、作品を通じて現状を発信していくというプロジェクトです。このワークショップを地元の方々で行うという企画を立てましたが、コロナ禍で中止、延期を繰り返しました。その中で心強かったのは香川大学の先生や学生と一緒に動いてくれたことです。その活動を基に21年はARを使い善通寺市の街中を

奥深い「人の心を動かす」アート

歩いて東京芸術大の学生たちの作品を映像や音楽、絵画などで立体的に見るといって「TOKYO GEIDAI ART FES BY AUGMENTED REALITY IN 善通寺」を行いました。

知事 今年開催する瀬戸内国際芸術祭2022もコロナ禍での開催となりますが、どのようなことを期待されますか。

日比野 今後は人間生活の基盤として、ますますアートが必要になってくる時代です。これからのデジタルネイティブの子どもたちは、我々とは全く違う思考回路で育つということが考えられます。ARもそうですが、土地に生きる実感や人と触れ合うことの実感を踏まえた上でのバーチャルな空間との付き合い方が大切になってきます。かつて川のほとりでマーケットが生まれたように互いの価値観の交換から文化は生まれます。リアルと

1958年岐阜県生まれ。現代美術家。東京芸術大学美術学部長。瀬戸内国際芸術祭参加アーティスト。東京芸術大学在学中に「段ボール」を用いた作品で注目される。近年は、地域の特性を生かしたワークショップを多く行っている。香川県内において、2010年の瀬戸内国際芸術祭をきっかけに、三豊市の粟島を拠点にした「瀬戸内海底探査船美術館プロジェクト」を展開中。2022年4月に、東京芸術大学学長へ就任することが公表されている。

知事 私も小さい頃、薦島や粟島には海水浴などで出掛けたことがあります。粟島の旧海員学校は非常にユニークな施設で、強い印象を受けたのを覚えています。この粟島をはじめ、瀬戸内の島々が舞台となる瀬戸内国際芸術祭は、当初から「海の復権」と「島の元氣」をテーマに掲げていますが、アートを通じて、瀬戸内海や島々への関心がとても高まってきたように思います。

日比野 アートは本来、自分たちの日常の中にあるものです。1980年代は日本各地に美術館ができ、二流の美術作品を地域の美術館に見に行くというのが文化に接するというものでしたが、それから40年経ち、ここ10年ほどで美術館の役割が変わってきました。地域の独自性を出し、土地の持っている魅力を発信する拠点として使っていくという考え方が出てきました。地域において情報を持っている人たちを取り込み、地域性を生かしたプログラムを発信していくことが、現在の大きな流れです。その流れの中で瀬戸内国際芸術祭や「アート県かがわ」は、美術界ではとても大きな役割を果たしています。さらに、アートには、人の心を動かす力があります。例えば、世界の海洋環境を調査するタラ財団の調査船であるタラ号には、科学者以外に必ず一人のアーティストを乗船させます。数字は現状や目標を把握するには必要ですが、心を動かすことはできません。アーティストには、科学だけでは発信できない役割を期待されているわけです。実は、このタラ号の搭乗員が気に入ったこともあって、タラ財団の日本の活動拠点が粟島につくられました。粟島の



「Re-ing-A」は沈没船から引き揚げたレンガで制作した作品。

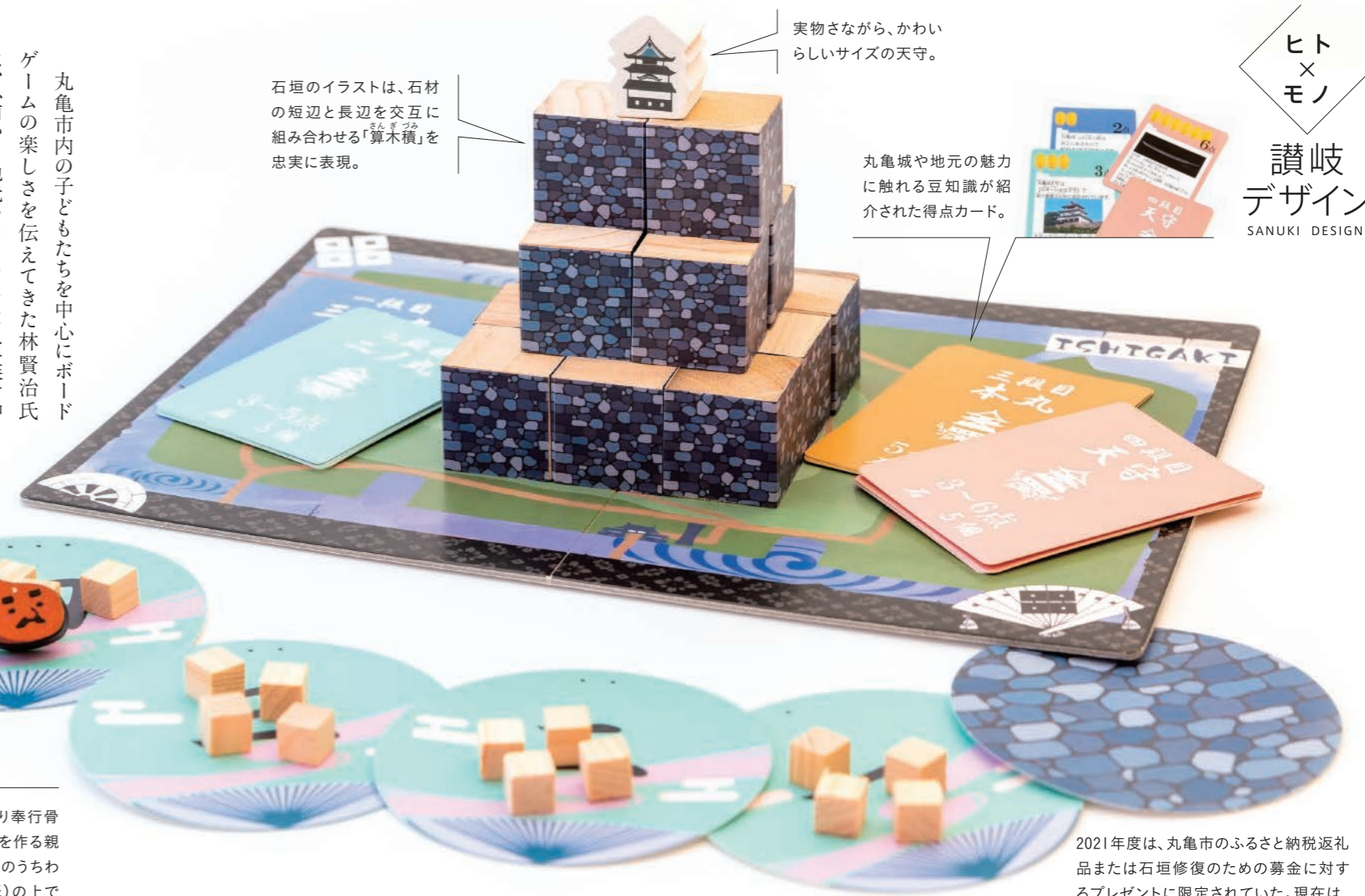


日比野克彦氏による瀬戸内国際芸術祭の粟島の作品「瀬戸内海底探査船美術館プロジェクト」。「ソコソコ想像所」は、海底から引き揚げられた遺物を見て、想像を膨らませる陸上の拠点。「昨日丸」(写真)は、遺物が展示される海に浮かぶ美術館。

バーチャルの価値交換からも、新しい文化が生まれてくることでしょう。瀬戸内国際芸術祭はアートを介して、その価値観の共存や価値交換の場所として重要な役割を担っていくことでしょう。

知事 その瀬戸内国際芸術祭を安心して楽しんでいただけるよう、新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底などを行い、着実に準備を進めています。日比野さんの新作も心から楽しみにしています。本日はお忙しい中、ありがとうございます。

※今回の対談は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで実施しました。



実物さながら、かわいらしいサイズの天守。

丸亀城や地元の魅力に触れる豆知識が紹介された得点カード。

石垣のイラストは、石材の短辺と長辺を交互に組み合わせる「算木積」を忠実に表現。

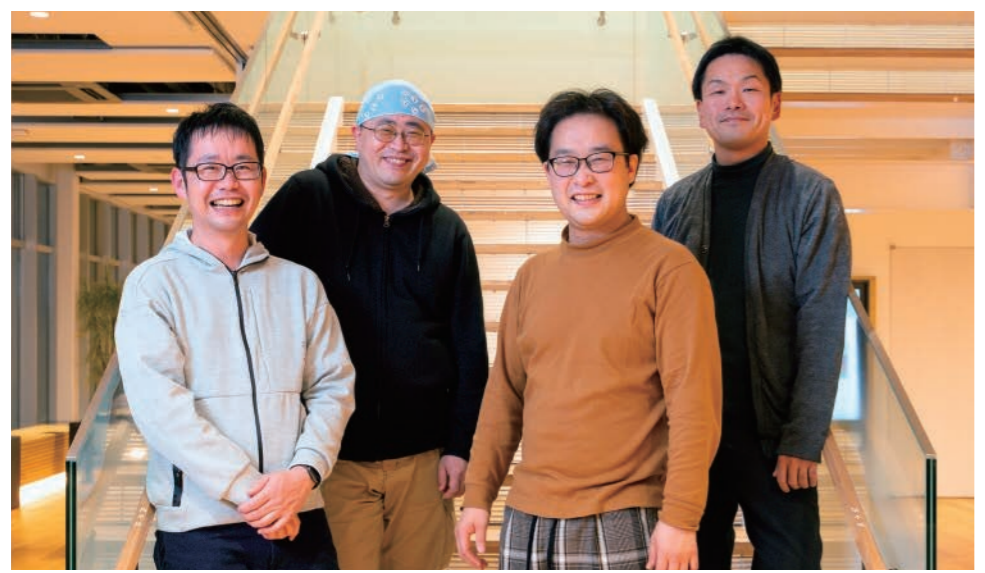
丸亀市内の子どもたちを中心にボードゲームの楽しさを伝えてきた林賢治氏は、以前から地元をテーマにして家族で仲良く遊べるようなボードゲームづくりの構想を抱いていた。2018年の丸亀城石垣崩落以後は、石垣復旧をテーマにしたゲームを作りたいと思うようになる。そこで、ボードゲーム好きの仲間を声を掛け、2020年1月に「さぬきファミリーゲーム倶楽部」を結成。メンバーは5人、年齢も職業も違うがボードゲームへの熱意は同じ。早速ゲームづくりのアイデアを持ち寄り形になったものをそれぞれ身近な人に試してもらい、改良を重ねた。その試作品を持って丸亀市産業観光課とタッグを組み、同市の提案型協働事業にエントリーし、見事に採択される。

丸亀市と力を合わせたことで、ゲームのルールやデザインに深みが生まれ、面白さが倍増した。平面的であったゲームは立体的に生まれ変わり、細部のデザインにもこだわることができた。さらに得点カードにより、丸亀市の豆知識を得るといったアイデアも加わった。

2021年11月に開催したお披露目イベントでは、実際に市民の皆さんに楽しんでもらい、さらなる改良点となる貴重な意見をもらうことができた。このゲームの原型はアフリカ発祥といわれる伝統的なゲーム「マンカラ」。石を使っ

て遊ぶ素朴なゲームは世界中でルールの異なる多くのゲームを生んできた。つまり「ISHIGAKI〜イシガキ〜」も完成形ではなく、人々の楽しみ方によってさらに進化を遂げる可能性を持っている。また、2人での対戦式にすればより競技性が高まり、本格的な大会開催の夢も広がる。

丸亀市で石といえば丸亀市沖の広島島で採れる青木石が有名である。実際の青木石を使ったバージョンも試作した。さらに塩飽水軍の歴史を取り入れ、石を船に積み込むところからスタートするようなゲームフィールドを広げる構想も練っている。誰もが楽しめることはもちろん、地元を知ってもらうためのゲームをデザインするという奥深い楽しみを見つけた「さぬきファミリーゲーム倶楽部」。デジタル化が加速する現代だからこそ、人と人が実際に顔を合わせ語り合うアナログゲームで地域の魅力を伝え、地域が抱える問題解決の糸口につなげたいと願っている。



【ゲームの概要】
対象年齢は8歳から。2人〜4人で30分ほどでプレイできる。手持ちの駒をうちわタイルの上で移動させていく。石置き場で条件がそろえば石垣ブロックを積み、得点カードを引くことができる。石垣ブロックが積み上がり天守を乗せると完成。勝敗は得点カードの点数の合計で決まる。詳しいルールは下記ホームページで。

さぬきファミリーゲーム倶楽部
2か月に1度、ファミリー向けのボードゲーム体験会を開催するほか、学童保育などで子どもたちにボードゲームの楽しさを伝える活動を行う。会長の林賢治氏(前列右)は「パン・焼き菓子工房らぼ」店主。副会長の三原俊亮氏(前列左)は僧侶。我居照雅氏(後列左)はミルクティーと焼き菓子の店「六角スコーン」店主。池北寛司氏(後列右)ともう一人のメンバー安藤直人氏は会社員。年齢も職業も違うが、全員がボードゲームで家族との触れ合いの時間を作ることを目指している。

<https://sanuki-familygame-club.com>



ご当地キャラクター「とり奉行骨付じゅうじゅう」は石垣を作る親方役の駒。丸亀市特産のうちわをかたどったタイル(紙)の上で駒を運んでいく。

地元をデザインするボードゲーム 仲良く、楽しく、築城!

さぬきファミリーゲーム倶楽部 × ボードゲーム「ISHIGAKI〜イシガキ〜」



丸亀市沖の広島に唯一残る石材店「砂川光利石材加工店」の協力で、ブロックや駒に青木石を使ったバージョンも試作。地場産業の活性化にも役立ちたいと願う。

日本一高く美しいと市民が自負する丸亀城の石垣。その上には、現存する木造十二天守の中で最もこぢんまりとした天守が築かれている。しかし、2018年の豪雨災害により、南西部の石垣が広範囲で崩れ、現在、市内外の人々の支援によりコツコツと修復が進んでいる。その石垣復旧への思いを形にしたボードゲームが誕生した。

2021年度は、丸亀市のふるさと納税返礼品または石垣修復のための募金に対するプレゼントに限定されていた。現在は、さぬきファミリーゲーム倶楽部からの一般販売も検討中。売上げの一部は石垣修復に充てられる予定だ。
【ふるさと納税・修復募金の問い合わせ】
丸亀市産業観光課 TEL0877-24-8816

石垣の名城といわれ日本100名城に数えられる丸亀城。見事な石垣の復旧が待ち望まれている。



丸亀城ホームページ



香川愛媛 せとうち旬彩館

KAGAWA EHIME SETOUCHI SHUN SAI KAN
東京・新橋アンテナショップ

特産品ショップ、郷土料理、観光情報コーナーで
香川の旬をぜひどうぞ。

ここだけの話…

実は「裏メニュー」があるんです！

讃岐うどんをはじめ、香川と愛媛の郷土色豊かな料理を提供している2階の「かおりひめ」には、実は、香川県にゆかりの方々に向けた通常のメニュー表には載っていない「特別なコース」があるのをご存じでしょうか。

香川の食材や郷土料理をより一層堪能できる、その名も「**香川県盛り込みコース(3,500円)**」。



香川県盛り込みコース

- ◎本日のお通し
- ◎おぼんざい3種盛り
- ◎地海老と若布のサラダ
- ◎お刺身4種盛り
- ◎オリブ牛の赤身ステーキ
- ◎讃岐コーチンの炙り焼き
- ◎真だこの唐揚げ
- ◎地魚の天ぷら
- ◎季節の煮物
- ◎讃岐うどん
- ◎本日のデザート

※内容は季節によって変わります。

讃岐うどんはもちろん、オリブ牛や刺し身、しょうゆ豆、白天(揚げかまぼこ)など、香川尽くしの料理が楽しめます。

午後5時以降のディナータイムに3人以上のグループに限って提供しています。ご利用の際には、前日までにご予約ください。


予約電話 03-5537-2684

東京でも「香川のうまいもん」を存分に楽しみたい方は、ぜひお試しください。

〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10新橋マリンビル1・2階
https://www.setouchi-shunsaikan.com
観光情報コーナー TEL03-3574-2028

春の夜に味わう「一歩一景」。

栗林公園 春のライトアップ



約300本の桜が彩る、特別名勝「栗林公園」の春。見頃を迎える3月下旬から4月上旬には、10日間限定の「春のライトアップ」が開催されます。

栗林公園といえば、「一歩一景」と称されるように、歩くたびに広がる多様な景色が魅力の一つ。春の夜には、さらに趣の違う絶景を堪能できます。

水面に映し出される桜、心躍る夜桜のトンネルなど、園内各所で演出される夢のような空間。光と影のコントラスト、松と桜が織りなす風景はまさに幻想的。期間限定で夜間に運航される和船に乗れば、桜や鳥々が水面に映り込む景観をゆったりと味わえます。


期間中の土・日曜日は、臨時無料駐車場もご用意しています。特別な時間を、心行くまでお楽しみください。

【問い合わせ】栗林公園観光事務所 TEL087-833-7411
https://www.my-kagawa.jp/ritsuringarden 栗林公園 検索

※桜の開花状況によっては、開催時期が変更になることがあります。
※開園・和船に関する最新の情報は、ホームページでご確認ください。

「住んでみたい」を、一歩先へ。

映像で届ける、かがわ暮らしのいいところ。



移住をお考えの方に、かがわ暮らしの魅力を、そして暮らしやすさの理由を知ってもらうための動画ができました。

瀬戸内の温暖な気候や災害が少ないという恵まれた環境に加え、都市の持つ利便性と豊かな自然が調和する香川県。実は、教育環境や文化施設などもとても充実しています。

動画では、かがわ暮らしのいいところを、ニュース、ドキュメンタリー、アニメーション仕立ての3つでご紹介。視聴後に、かがわ暮らしをもっと知りたくなった人は、かがわ移住ポータルサイト「かがわ暮(ぐ)らし」をぜひご覧ください。

動画は「かがわ暮(ぐ)らし」の特設ページからご覧ください。

- ①「住みたい! かがわ移住予報」
- ②「瀬戸内、島暮らし」
- ③「住みたい! KAGAWA GUIDE BOOK」



【問い合わせ】香川県地域活力推進課 TEL087-832-3125
移住ポータルサイト「かがわ暮(ぐ)らし」 https://www.kagawalife.jp/

心がけよう! 「新しい生活様式」

- 発熱などの症状があるときは 県HPページID 18469
まずは「かかりつけ医などの身近な医療機関」に電話で相談してください。
※どこに相談すればよいか分からないときは下記まで
「香川県新型コロナウイルス健康相談コールセンター」
TEL 0570-087-550 (専用ナビダイヤル)
- 香川県内の新型コロナウイルスの感染状況をご確認ください。 県HPページID 20977
※県公式ツイッターやフェイスブックでも情報を発信しています。
※外出や旅行の前に、目的地の感染状況やお住まいの地域で出されているメッセージを確認してください。
- アプリを使って、感染拡大を防止!
◆新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」
※詳しくは、厚生労働省のウェブサイトをご覧ください。

県立ミュージアム特別展 「戦後デザイン運動の原点」

県HPページID 7699

建築家の丹下健三、デザイナーの剣持勇、画家の岡本太郎といったメンバーが名を連ね、戦後日本のデザイン運動の先駆けとなった「デザインコミッティー」。その活動やメンバーからの交流に焦点を当てた特別展『戦後デザイン運動の原点—デザインコミッティーの人々とその軌跡』を香川県立ミュージアムで開催します。

戦後の復興から間もない1950年代、少しずつ広がり始めたデザインへの意識。そうした時期において、「デザインコミッティー」の人たちは、デザイン・建築・美術など他領域を自由に横断しながら、名作の数々を生み出しました。

現在につながるデザイン運動の広がりや、当時の資料や再現展示を通してお楽しみください。




松屋「グッドデザインコーナー」1950年代後半
写真提供：日本デザインコミッティー

丹下健三計画研究室(陶製椅子)1958年頃 香川県蔵

【期間】4月9日(土)～5月29日(日) 【休館】毎週月曜日(5月2日は開館)
【会場】香川県立ミュージアム(高松市玉藻町5-5、JR高松駅から東へ900m)
【料金】一般：1200円、前売・団体・瀬戸芸パスポート：1000円
【問い合わせ】香川県立ミュージアム TEL087-822-0002

地方と都会を結ぶ、サテライトオフィスの拠点。 県の支援制度で初の施設が誕生。

香川県は、県外企業のサテライトオフィス誘致に取り組んでいます。2021年12月には、県が支援する補助制度を活用した初めての施設が誕生しました。

新しくオープンしたのは、高松市兵庫町商店街の空き店舗を改修した「COWORKING SPACE Co-musubi」(運営事業者：京橋白木株式会社/東京都)。サテライトオフィスとして利用できるオフィススペースやコワーキングスペース、個室にWi-Fi環境、ドリンクバーなども完備した、企業や人をつなぐ拠点施設です。

施設はさまざまなシチュエーションで利用でき、イベントやセミナー会場としても使用可能。地元商店街の活性化にも期待が高まります。

「香川には、日本酒、陶磁器、民芸品といった魅力のある地場産品や伝統的工芸品などがあり、これらの産業に関わるクリエイターやデジタル人材を東京とつなげられるようなコミュニティにしたい」と、代表取締役の竹下さん。

地域や業種など、垣根を越えたいいろいろな人たちが集うことで、新しいアイデアが生まれることも。ワーケーションを検討中の方やこれから香川に新たな拠点をもちたい方など、香川での新たな発見やつながりができる場所として、ぜひ活用してみたいかがでしょうか。

【問い合わせ】香川県企業立地推進課 TEL087-832-3354

県HPページID 香川県ホームページのトップページ上部にある「ページID検索」に番号を入力するだけで該当ページをご覧いただけます。

(注)掲載のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、中止または内容に変更が生じることがあります。


受け継ぐ人、受け継がれる技。 香川漆芸 「彫りと色彩 漆の魅力展」

東京都の瑞玉ギャラリー(板橋区)で3月18日から開催される「彫りと色彩 漆の魅力展」。香川県漆芸研究所などで学んだ若手漆芸作家3人(北岡道代、藤村由、前坂成哲)による展示販売会で、作家本人の作品解説も楽しめます。

香川漆芸は、江戸時代から受け継がれる「蒔薨(きんま)、彫漆(ちゆうしつ)、存清(ぞんせい)」の3つの技法があり、彫りと鮮やかな色彩が特長です。


これらの技法は、現在も絶えることなく受け継がれており、若い作家たちが、伝統技法を用いながら多彩な表現方法により、新しい漆芸の世界を切り開いています。

次の時代を担う若い感性に、ぜひ注目してください。



蒔薨盆「黒猫」 藤村 由

【期間】3月18日(金)～26日(土)※23日(水)は休み
【会場】瑞玉ギャラリー(東京都板橋区板橋2-45-11)
【問い合わせ】香川県文化振興課 TEL087-832-3785



COWORKING SPACE Co-musubi

コワーキング スペース
コムスビ Co-musubi




【利用料金】

種類	料金	その他
個室会員	20,000円/月(※)	365日24時間利用可 (専用の個室スペースを含む全施設)
月額会員	10,000円/月(※)	365日24時間利用可 (専用の個室スペースを除く)
ドロップイン(一時利用)	3時間500円 最大1日1,000円	午前10時～午後6時 (コワーキングスペースのみ利用可)

(※)法人登記・住所登録は別途費用が必要

【場所】香川県高松市兵庫町2-1
【問い合わせ】COWORKING SPACE Co-musubi
ホームページ https://www.co-musubi.work
予約サイト https://reserva.be/comusubi2021